

中学校と連携した取組事例

事業名：森林・林業体験活動支援事業

市町名：安芸高田市

事業の目的

- ・ミツマタは和紙（特に紙幣用紙）の原料として、古くから栽培されてきた。しかし、最近では大量生産が容易な西洋紙に市場を奪われ減少傾向を続けている。このため、我が国固有の良質な製紙原料であるミツマタの生産を復活させる植樹を行う。
- ・甲田の地において、地域住民等が協働でミツマタを植樹し、その活動を通して郷土を思い、夢を育み、向上する人づくりを目指す。

取組の内容

- ・事業主体：甲田町資源を守る会
- ・協力：NPO法人ひろしま人と樹の会
公益財団法人 日本レスリング協会
広島県レスリング協会
- ・実施場所：安芸高田市甲田町
- ・業務金額：305千円
- ・参加人数：32名
- ・日時：令和4年3月20日
- ・ひろしま人と樹の会や日本レスリング協会が中心となって、ミツマタの苗100本、ミツバツツジ25本、中苗のイロハモミジ5本、カワズザクラ3本を植樹した。
- ・今後の除草等維持管理を考慮し、ミツマタの苗にはピンクテープを結び植え付けを行った。特に中苗のサクラ2本については、シカ食害を防止する試みとして唐辛子を紐につけて、その幹に巻き付けた。

今後の展開

- ・元気な森を次世代に残していくため、ニホンジカの食害にあわない樹種であるミツマタを中心に、地元中学校と連携し毎年植栽を行い、広島県最大の一大群落を目指して計画を進める。

取組の感想

- ・天候にもめぐまれ、子どもから大人まで延べ32人の参加を得て、ミツマタを中心に植えることが出来た。植樹後には参加者一人ひとりの自己紹介があり楽しく交流でき、来年の植樹会にも参加しようという呼びかけをした後、解散した。
昨年は安芸高田市立甲田中学校と連携して植樹を行うことができたが、今年はコロナウイルスの影響もあり実施できなかった。



地域住民等と連携した取組事例

事業名：特認事業（地域資源保全活用事業）

市町名：安芸高田市

事業の目的

・土師ダム湖畔に面している田屋城址の周辺に散在する古墳や大徳寺境内、五輪塔群等の史蹟を雑草や雑木が繁茂していた。そのため、「さとやま土師 田屋城址を守る会」を結成し、史蹟を守るために、雑木等の除去や田屋城周辺の史蹟や隣接する県営林内を巡る遊歩道を整備する。遊歩道は、最終的に「史蹟探索と森林セラピー遊歩道」として位置づける。

取組の内容

- ・事業主体：さとやま土師 田屋城を守る会
 - ・実施場所：安芸高田市八千代町土師
 - ・業務金額：2,870千円
 - ・参加人数：延べ100名
- ・田屋城址の除伐、枯損木の撤去、主郭からの眺望を考慮しながら雑木の除伐、竹林の皆伐、横堀を中心に枯損木の撤去を行った。
- ・子ども一人でも安心して登れる山城を目指して、登山道入り口から第二郭、出城、横堀、二の丸、三の丸、主郭と滑落の危険がある箇所全てに安全柵を設置した。
- ・土師ダムの新しい観光資源となるよう、田屋城址全体に日光東照宮の枝垂れ桜の苗木を55本購入し植栽した。
- ・植栽した花木のシカ食害防止対策として、ワイヤーメッシュと害獣除けネットで城山全体を取り囲んだ。

今後の展開

- ・昨年の豪雨により一部史蹟が被災したため、土石の撤去及び史蹟の復旧を行う。
- ・作業拠点の整備として間伐材を活用しツリーハウスを建築する。

取組の感想

【良かった点】

- ・取組にあたり、会員の高齢化により存続も危ぶまれていたが、広島工業大学建築工学科の学生達が「田屋城址を綺麗にしたい」と大勢やってきて、学生達と地域の老人達とのふれあいの場が出来て活気が溢れた。



地域住民等と連携した取組事例

事業名：特認事業（地域資源保全活用事業）

市町名：安芸高田市

事業の目的

・荒廃している森林と隣接している空き家を整備してレクリエーション感覚で山林の良さを楽しめる「里山会所」とし、そこを拠点とした里山体験を通じて山林資源の利用、山林特性の理解、山林への親近感の醸成などを深める。

今後の展開

・今後は、引き続き森林整備を行い、学習会・体験会を開催する。
・手洗い所（エコトイレ）を設置し、子どもから高齢者まで安心して里山を楽しめるようにする。最適な森林経営の標本林となるよう活動を進める。

取組の内容

・事業主体：NPO法人百華倶楽部
・実施場所：安芸高田市甲田町
・業務金額：3,743千円
・業務内容：歩道の整備、下刈り、除伐、炭窯設置、簡易休憩所（ツリーハウス）の整備、デッキの設置

・今年度は、活動拠点となる施設周辺の下刈りや除伐を実施し、簡易休憩施設（ツリーハウス・デッキ）の設置を行った。
・また、「森のあそび場すくすく」と連携して子どもの自然体験教室や森林体験会を8回実施し、延べ270人の参加があった。



取組の感想

・これまでの活動が徐々に認知され、各地域で活動している団体とも連携がとれ、里山に関するあらゆる事業が展開し始めている。

